



## 7・6文連総会を実現

### 感染対策を理由としたサークル活動規制を許さない団結をうちかためる

7月6日、私たち早稲田大学文化団体連合会は、2021年度前期定例文連総会をオンラインで開催しました。早大当局・学生部による感染対策を理由としたサークル活動規制をはねかえしサークル文化を創造的に発展させてきた今春期の意義と、憲法改悪反対を含む今夏・今秋期の文化サークル活動方針をめぐり、サークル幹事が活発に討論を繰り広げました。討論の結果、常任委員会が提出した議案は賛成10 反対0 保留0 の満場一致で採択されました。

討論で私たちは、当局・学生部が5月18日から「感染拡大防止」を理由に突如として学生会館部室・練習室と隈裏部室を閉鎖し、対面でのサークル活動を一方的に禁止したこと（5月31日に再延長）に抗して、団結して6月21日にこれを改めさせてきた地平と意義を確認しました。

今回の学生部の措置は、新歓活動を終え5・6月に本格的な活動を行なおうとしていたサークルにとって、大きな打撃を与えるものでした。常任委員会はこの措置を一刻も早く改めさせるため、6月4日に緊急の抗議声明を発し、同日、文連加盟サークル幹事の緊急会合を開きました。会合で出された幹事の意見を集約する形で、常任委員会は6月17日、早期に学生会館を開放し対面でのサークル活動を再開すること、そのために必要な感染対策をただちにとることを求める「要求書」を学生部に提出しました。こうしたサークルの怒りの声によって、学生部は翌日18日、ついに対面でのサークル活動の再開を発表したのです。

さらに6月29日、文連加盟サークルの有志は神原委員長の呼びかけに応え、サークルの垣根を越え様々なジャンルのサークルが結集し「早稲田サークル文化を盛り上げよう！ 文連の会」を結成しました。参加したサークル員は、7・8月期の文化サークル活動の前進に向けてサークルの声を一つにまとめ、これ以上学生部が感染対策を理由に対面でのサークル活動を禁止することを許さないために結束を強めたのです。

このように私たちが切り拓いた地平と意義を振り返って、サークル幹事は今春期の活動についてそれぞれ報告しました。サークル幹事は「6月に控えていた企画が中止になった」「5月に公演を生配信で行なう予定だったが急遽映像配信に切り替えざるをえず、大変だった」と突然活



対面でのサークル活動継続をかちとり、活気あふれる学生会館(7月)

動の見直しを迫られた時の苦勞を語りながら、「今は新人の訓練でとても忙しい」「稽古や練習をこれから一気に推し進めていく」と開放をがちとった学生会館・隈裏部室で新入生とともに急速に練習や稽古を開始していることを報告しました。演奏会を延期したサークル幹事は「会場を取り直して、活動再開後に実現した」と堂々と語りました。サークル幹事の誇りに満ちた報告に、オブザーバー参加した新入生も熱心に耳を傾けました。

## 今夏・今秋のサークル活動の前進のために団結を固める

続けて、今夏・今秋期の文化サークル活動の前進に向けた後期活動方針をめぐり討論しました。はじめに神原委員長は「7・8月期、サークルは新人訓練や後輩への技術の継承などやるべきことが沢山ある。東京オリンピックの開催に伴う都内の感染状況を理由に、再び学生部が対面でのサークル活動を禁止することは絶対にあってはならない。サークルは団結を強めよう！有観客でのサークル諸企画の実現もかちとろう！」と呼びかけました。

現在、学生部はサークルの諸企画を「オンライン配信のみ」に制限しています。しかし早稲田の伝統あるサークルの演劇公演や演奏会、発表会は、オンラインではその真価を十分に発揮できません。社会的には、必要な感染対策をとり文化公演やスポーツ競技が観客を動員して行なわれており、早稲田大学でも体育部の大会や早慶戦は有観客で行なわれています。サークルだけが冷遇されている状況に対して、幹事からは続々と意見が出されました。

「実際に劇場に足を運んでその場で得る感動は、画面越しで感じるものとは比べものにならない。その場でしか得られないものがあるのが演劇だ」「公演にはその場限りの“一回性”がある。だから私たちは有観客にこだわり続けている」（演劇サークル）。「観客のいない演奏会はステージから見ていて心苦しかった。音楽も演劇と同じ。観客の反応も含めて演奏会の一部だ」（音楽サークル）。研究サークルは「みなさんの話を聞

いて、私たちの活動を止めているのはウィルスではなく、政府や大学だと思った。大学はサークル活動を危険視している。こういう偏見に対しては、サークルがまとまるべき」と学生部への怒りを表明しました。

参加したサークルは、今夏・今秋の文化サークル活動を創造的に前進させるために、ともに結束し学生部に対して声を上げるべきことを一致したのです。

## 「緊急事態宣言」下、対面でのサークル活動の継続をかちとる！

文連常任委員会は前期総会を実現したことにふまえ、菅政権が4度目の「緊急事態宣言」を12日から東京都に発令することを決定しようとしていた7月8日、学生部に緊急の申し入れを行ないました。学生会館の閉鎖・対面でのサークル活動の禁止を行なわないよう強く求めたことに学生部は驚き慌て、翌日9日に対面でのサークル活動を継続することを発表したのです。私たちの要求に対し、文連加盟サークルのみならず未加盟サークルからも「コンパや合宿がたとえできなくても仲間と過ごす普段の練習まで奪わないで欲しいです！」といった共感の声が寄せられています。この地平にふまえ、私たちはさらに早稲田サークル文化の力強い前進をかちとるために奮闘します。すべてのサークル員のみならず、ともに頑張りましょう！